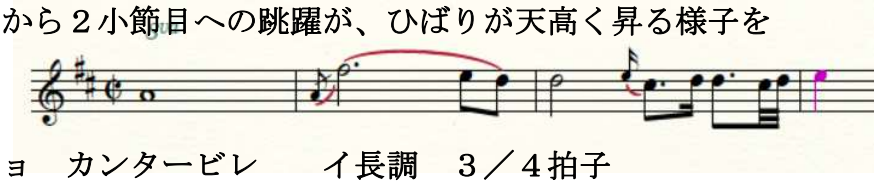
曲目解説

●ハイドン：弦楽四重奏曲　ニ長調　Op64-5　「ひばり」（１７９０年）

ハイドン（Franz Joseph Haydn, 1732-1809）はオーストリア出身の作曲家。
弦楽四重奏の分野の曲はハイドン以前からありましたが、その形式を確立したのはハイドンです。１７９０年はハイドンが長年勤めていたエステルハージ家（ハンガリー）からウィーンに移った年です。
弦楽四重奏曲は全８３曲。ひばりは第６７番に当たります。

第１楽章　アレグロ・モデラート　　ニ長調　２／２拍子
ひばりという名称は第１楽章の第１主題の旋律の印象に基づきます。
１小節目の全音符から２小節目への跳躍が、ひばりが天高く昇る様子をおもわせます。



第２楽章　アダージョ　カンタービレ　　イ長調　３／４拍子
第３楽章　メヌエット　アレグレット　　ニ長調　３／４拍子
第４楽章　フィナーレ　ヴィヴァーチェ　ニ長調　２／４拍子
無窮動的な動きで一貫しています。

演奏時間　約２０分

●シュルホフ：弦楽四重奏のための５つの小品（１９２３年）

シュルホフ（Erwin Schulhoff　1894-1942）チェコの作曲家、ピアニスト、指揮者。
ジャズや実験音楽の要素を取り入れた曲など、２００曲以上の作品（交響曲６曲、ピアノ協奏曲２曲など））を書きましたが、ナチス・ドイツによって「退廃音楽」という烙印を押されて迫害を受け、１９４２年に強制収容所で亡くなりました。
弦楽四重奏のための５つの小品は、ダンス愛好家だった作曲者によって５つの異なる国の舞曲が彼らしい手法で表現されています。

１曲目　ウィンナ・ワルツ風に　　といいながら記譜は２／２拍子です。
２曲目　セレナータのように　　５／８拍子
３曲目　チェコ風に
４曲目　タンゴ・ミロンガ風に　　４／４拍子
５曲目　タランテラ風に

演奏時間:約１５分

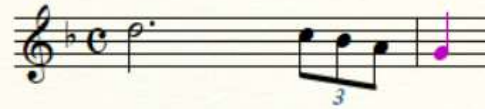
休憩

●シューベルト：弦楽四重奏曲第 14 番　ニ短調　Ｄ８１０　「死と乙女」　（１８２６年）

フランツ・ペーター・シューベルト（ Franz Peter Schubert, 1797- 1828）は
オーストリアの作曲家。主にウィーンで活動しました。
わずか３１歳で亡くなっています。著名な作曲家の中では最も若くして亡くなった作曲家です。この短い生涯の間に多数の歌曲、ピアノ曲、室内楽曲、交響曲９曲、オペラ８曲、ミサ曲７曲など膨大な数の曲を書き残しています。
弦楽四重奏曲は全１５曲。
「死と乙女」はシューベルトのみならず、弦楽四重奏曲全体の中でも
常に、ベスト１０には数えられる名曲です。

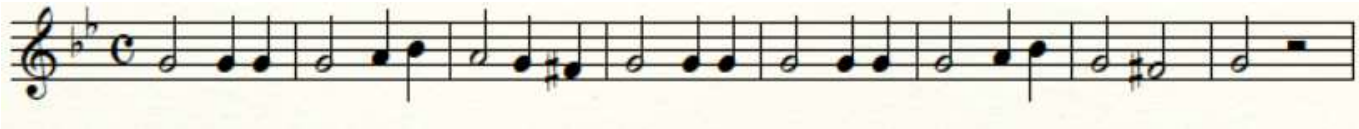
第１楽章　アレグロ　ニ短調　４／４拍子

冒頭の響きが印象的です。この主題は何度も登場します。

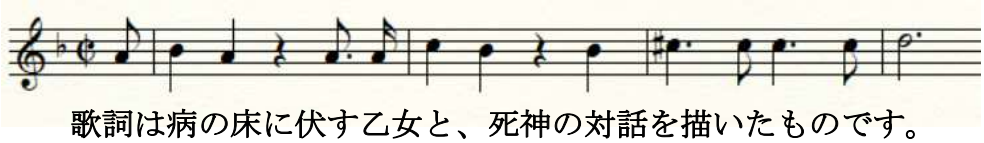


第２楽章　アンダンテ・コン・モート　ト短調　２／２拍子

旋律に自作の歌曲「死と乙女」の伴奏音型が使われているため、この名前で呼ばれています。



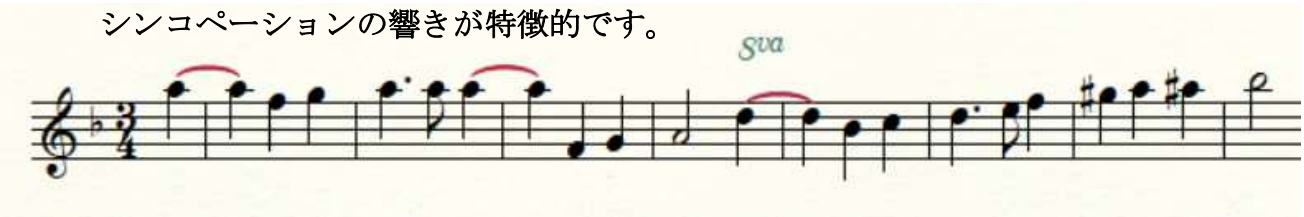
ちなみに、歌曲「死と乙女」の旋律は以下のようなものです。



歌詞は病の床に伏す乙女と、死神の対話を描いたものです。

第３楽章　スケルツォ　アレグロ・モルト　ニ短調　３／４拍子

シンコペーションの響きが特徴的です。



第４楽章　プレスト　ニ短調　６／８拍子

次の主題によるロンドです。

演奏時間：約４０分